令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷小学校】

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着のための、反復・習熟に取り組む時間の設定が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等の、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。 また、算数の「数と計算」の領域に大きな課題がみられたため、「数と計算」の基礎的・基本的な知識・技能の定着への取組を全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。
思考・判断・表現	学習過程を見直し、活動の中に自らの学びを振り返る時間を位置付け、学びを自己調整できるよう計画していく。 根拠となる資料を選び、必要な部分を見つけたり、自分の意見を書いたりすることに課題がみられたため、教科横断的な視点として、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問うようにしていく。 各教科の授業で、根拠資料を基に、自分の考え・意見をまとめる活動を重視していきたい。

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られる。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒	「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【単元の最初や最後に実施】 また、宿題等でも「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、家庭学習の充実に取り組む。【週に2～3回程度の実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力が弱い。 【指導上の課題】 児童が自らの学びを振り返る時間を確実に確保できていない。	⇒	授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。【毎単元設定】 また、振り返りをふまえ、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する。【毎授業実施】

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価(※)	
知識・技能	B	単元の最初や最後に、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことが習慣化し、テストの結果に伸びが見られた教科もあった。また、宿題等でも「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を配信し、家庭学習の充実に取り組むことができた。 R6年度さいたま市学習状況調査「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の質問項目において、肯定的な回答結果が多くの学年でさいたま市の平均を超えており、取り組んだ成果が表れている。
思考・判断・表現	B	単元ごとに必ず児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、自らの学びをメタ認知することができた。振り返りをふまえ、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定することもできた。 R6年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答結果が9割を超え、さいたま市の平均を超えており、取り組んだ成果が表れている。

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	国語では、我が国の言語文化に関する事項の問題に課題がみられた。また、問題形式が選択式ではなく短答式の問題も正答率が低い傾向にある。 算数では、除数が小数である場合の除法の計算という基礎基本的な問題に課題がみられた。四則演算等、基礎基本定着が不十分だと考えられる。
思考・判断・表現	国語では、話すこと・聞くことの問題で全国平均を超え、成果があった。しかし、読むことの記述式の問題に課題がみられた。正解率が低いことに加え、無回答率も全国平均より高い傾向にある。 算数では、図形の記述式の問題で全国の平均を超えた一方、他の問題では、全国の平均を下回る問題が多かった。昨年度の全国学力・学習状況調査においても、思考・判断・表現全体の正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	全学年・全教科でさいたま市の平均を下回った。どの学年も特に算数に課題が見られ、基礎的・基本的な計算(簡単な乗法や小数の計算等)が身に付いていない児童が多くいる。繰り返し問題を解く時間を多く設けたり、家庭学習で繰り返し取り組んでもらう必要があると考える。
思考・判断・表現	全学年・全教科でさいたま市の平均を下回った。どの学年も複数の資料から答えを導き出す問題に課題が見られる。必要な資料を選択し、必要な情報を得ることが難しい児童がいると考えられる。日頃からどの教科でも資料から必要な情報を読み取る力を付けていく必要を感じる。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	単元の最後や宿題等でも「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、復習や家庭学習に取り組む一連の流れを形成できた。	変更なし
思考・判断・表現	B	毎単元の終わりには必ず振り返りの時間を設定し、実施することができた。児童がより主体的に課題を設定・解決できるようにしていく。	変更なし

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(概ね達成)　C 6割未満(あと一歩)